



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年12月20日発行(毎月1回20日発行)

# ふるさとたより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

Dec

NO.31

12

Pick up

## 着々と進むふるさとの復興

海辺に植樹が行われ、イベントで心の交流を。



今月の子どもたち 汐見が丘ソフトボールスポーツ少年団

右から／柳葉清陽くん(6年)、東谷樹くん(6年)、  
清水源太くん(6年)、柳葉洸太くん(6年)



久之浜・大久



四 倉



平



小名浜



勿 来

石川町との“海と山の交流”  
家屋等の基礎撤去始まる

海岸・漁港復興実行委員会  
大浦ふれあいウォーキング

豊間小学校で特別授業  
3地区で市民会議発足

街と水産業の復興への想い  
福島丸、航海実習から帰港

植田中×ヤングアメリカンズ  
錦須賀にクロマツ植樹



久之浜・大久地域づくり協議会と中谷まちづくり委員会を中心に進む5年目の石川町との交流



校歌やハンドベル演奏が披露された後、3校の児童たちは一緒にゲームを楽しみました



山の幸と海の幸がテーブルに乗り切れないほど。手作りの料理を食べながら語り合う交流会

5年前から始まった石川町との交流。10月12日の「久之浜・大久復興祭」には石川町から3団体が参加。鍋料理や特産品売り場には長い行列ができました。久之浜・大久地域づくり協議会（木村芳秀会長）も、10月27日「石川町産業交流祭」、11月3日「なかに秋の収穫祭」に参加するなど相互交流が盛んに行われています。



## 大人から子どもまで 広がる石川町との「海と山の交流」

### 子どもたちの交流も盛大に

昨年も行われた、久之浜一小と石川町の中谷二小との交流。今年は久之浜一小の児童も加わり総勢81名が参加しました。

11月11日、3校の児童が一緒にサツマイモ掘り。午後は中谷二小体育館でゲームなどで楽しい交流の時間を過ごしました。「大人の地域間交流に加え、素敵なことに子どもたちの学校交流。長く続けていかなければ」と菱沼明美中谷二小校長が話してくれました。



掘り出した大きなサツマイモ。山あいに広がる畑のあちこちから驚きの歓声が起っていました

### 2年目を迎えた農業体験

地域づくり協議会の今年度3回目の農業体験が11月17日行われました。サツマイモ、大根、白菜の収穫を行い、その後石川町のみなさんとの交流会。

参加者の一人、石川町災害ボランティアのリーダー大野芳治さんは「交流は、人と人、地域と地域、心と心をつなぎます。相手がいるからこそ違いがわかり、自分の足下を見つめ直す機会になっている」と話します。



6月に苗を植えたサツマイモ、8月に植えた白菜など大きく育った野菜を老いも若きも一緒に収穫です

## 勉学の秋 小中学校で成果発表

### 久之浜中「海蜂祭」10月26日

久之浜中の文化祭「第21回海蜂祭」が開かれました。生徒会活動報告の後、今年度の福島県吹奏楽コンクールで金賞を受賞した吹奏楽部が演奏を披露。そして各学年の総合発表が行われました。高校大学の研究、職場体験の様子を寸劇を交えて発表。特に3年生の福祉についての発表では、震災時多くの人の支えがあったことを忘れず、久之浜のために、他の人のために、何かができる人になることを宣言。在校生や来場者から大きな拍手が送られました。



「あまちゃん」のテーマ曲などを演奏した吹奏楽部。壇上では男子の有志が応援で盛り上げました

### 久之浜二小「学習発表会」10月27日

久之浜二小の学習発表会が開かれました。手作りの神輿を担ぎステージに上がった1年生3名の開幕の言葉から、同小の児童と卒業生による「黒潮流みつもり太鼓」の賛助出演をはさみ、さまざまな演目が発表されました。最終演目の全児童29名による群読と齊唱では「みんな大切な一人ひとり。世界が一つになるまで手と手をつなごう」と力強いメッセージが発せられました。



スローガンは「輝く笑顔があふれる舞台!!久二の元気を客席にも届けよう」。元気いっぱい進んだ発表会

### 久之浜一小「学習発表会」11月3日

久之浜一小の学習発表会が開かれました。1年生の劇「三森山のたぬきたち」で開幕。全校生163名による「たしかなる風～ふるさと久之浜」の合唱や学年別に日頃の学習の成果を発表。最終演目は6年生による劇「フラガール」。上演時間30分を超える力作でした。

また、松本光司校長から同小PTA（木下佳久会長）が日本PTA全国協議会会長表彰を受けることが発表されました。



「フラガール」の終演後、6年生全員が父母や来場者に感謝の言葉を述べ学習発表会が終了

## 交通安全協会久之浜支部 (若松紀夫支部長)からお知らせ

震災復旧工事そして原発事故対応等の工事車両の通行で交通量が増加しています。国道および線路西側の久之浜一小の通学路も抜け道として多くの車が通行し非常に危険な状況が続いていました。このたび、目の錯覚を利用し運転手にスピードを出させない効果のあるドットラインが小学校前230mに渡り設けられました。また、駅前には一旦停止のラインと標識、そして造成工事が進む災害公営住宅の南、立や代ノ下から国道へ出るT字路に信号機が設置されました。地区の安全安心のため皆さまのご協力をお願いします。



久之浜一小前の通学路に約230m引かれたドットライン



土地の造成工事が進む災害公営住宅の南側に新しい信号機が設置されました

### 久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年11月22日(天候:晴れ)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメディカル製TCS-172  
(シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.24	0.19
南町(旧道沿い中央部)	0.14	0.15
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.10	0.12
北町(久之浜駅前)	0.15	0.14
東町(旧久之浜漁協前)	0.11	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.15	0.15
西町2区(久之浜一小正門付近)	0.22	0.21
金ヶ沢(鹿野付近)	0.20	0.20
末続(末続駅前)	0.25	0.20
大久(大久公民館付近)	0.19	0.18
筒木原(久之浜二小西門付近)	0.14	0.13
小久(町田橋付近)	0.16	0.16
小山田(小山田集会所付近)	0.18	0.18

単位はすべてμsv/h

※(株)東北イノベーターのHP  
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で  
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

市では、土地区画整備事業による久之浜地区の早期復興を目指しています。区画整理地域内の土地の再配置案を確定させる仮換地指定に向けた土地権利者の個人面談が行われました。また一日も早い復興へ向けて被災家屋の基礎等の撤去作業も始まりました。区画整理区域内では150棟、県が担当する65棟の被災家屋基礎撤去が

### 家屋等の基礎撤去始まる

順次進められていくこととなります。

### グランドデザイン策定部会

久之浜・大久地区復興対策協議会(吉原二六会長)に設けられた復興グランドデザイン策定部会(遠藤諭部会長)。毎月第2、第4水曜日に会議を開き、協議が進んでいます。まちづくりの指針・目標を①被災地区の再生、②安全・安心の向上、③定住環境づくり、④なりわいの確立、⑤自然との共生・活用、⑥個性と魅力の創出・発信、⑦人と文化の研鑽のテーマに分け協議を進め、年度内での久之浜・大久地区復興グランドデザイン(全体構想)策定を目指します。



何台もの重機が入り撤去作業が進む区画整理区域。防災



久之浜町内で始まった家屋基礎の撤去作業。町に復興への槌音が響き渡っています

## 芸能・文化とスポーツの秋

### ニュースポーツを楽しもう

久之浜・大久地区体育協会(坂本達夫会長)主催のニュースポーツを楽しむ会が11月16日、約50名の老若男女の参加により久之浜一小体育



館で開かれました。11月9日にはグランドゴルフ大会も開催され38名が参加。秋空の下、気持ちの良い汗を流しました。



### 久之浜・大久地区市民文化祭

今年の市民文化祭が11月3日、久之浜一小体育館で芸能の部と展示の部が同時開催され、出演者を含め約400名の来場者で賑わいました。



# 復興へ向けた動き

**防災緑地への植栽は、  
小中学生と住民、  
行政が協働で実施**

今回の実行委員会では、これまで3回に渡って議論を重ねてきた防災緑地と海岸堤防についての内容の確認とまとめがありました。

冒頭、四倉小学校の渡邊隆校長が、日本大学理工学部の岡田智秀准教授が主催した、同校の6年生による「まちあるき＆防災マップ」作りの活動を紹介。児童たちが再発見した四倉の魅力や、防災緑地の利用法について学習した成果を発表しました。

次に県いわき建設事務所から、防災緑地の現段階の設計案と維持管理の考え方が示されました。

その中で、防災緑地に植樹するクロマツは、苗木が根づくまでの数年間は、下草刈りや間伐など専門知識や技術が必要であり、根づいた後は、クロマツ以外の植栽と同様に地元のみなさんの協力を得たいとの説明がありました。

## 漁港内の堤防について 今後も議論の場を設ける

小名浜港湾建設事務所からは、漁港海岸の堤防計画の説明がありました。

境川の300m南から四倉中学校前までの漁港海岸の堤防は今年10月に発注済で、工期は平成25年10月12日から28年3月25日です。

現在、工事の施工計画を検討中で、決定次第改めて説明の場を設ける予定です。

## 第4回四倉地区海岸・漁港復興実行委員会開催

さらに、防災緑地の電気や水道などの設置や維持管理についても、今後、住民のみなさんと話し合って決めていきたいとの説明がありました。

また「防災緑地内に整備する大広場は国道6号側の駐車場に近い位置にすべきではないか」との意見が出て、今後検討することになりました。

最後に、防災緑地の造成工事が年度内に始まるため、工事に対する協力依頼が県からあり、改めて工事の説明会を実施することになりました。

境川から300mまでの残工事については、平成26、27年度に工事予定です。また国土交通省が久之浜地区で進めている国道6号バイパス工事の残土を、四倉地区の堤防や防災緑地で有効利活用するため、海水浴場の背後に、平成27年3月中まで工事区域内で仮置きします。漁港内の堤防については、今後、関係者のみなさんとともに、漁港内の堤防と防災緑地の背後の駐車場の計画を固めていきます。



今回も活発な議論が交わされた復興実行委員会の様子



海岸防潮堤と防災緑地の模型で具体的なイメージを示しました



※施設設置目安	
声	500m～1000mに1箇所、口蓋)
ベンチ	1km～2kmに1箇所(2箇所)
安全柵	人口筋に1基、高規格(40基)
電照灯	人口筋に1基、高規格
照光灯	人口筋に1基、高規格
照光機	100mに1基(1基周辺設置)
スロープ	人口筋から2箇所間隔設置
植樹帯	人口筋から1箇所(方向)
人道	人口筋から1箇所(方向)
海岸防潮堤	約200mに1箇所
※海岸緑地(砂質地)について(海岸緑地の構成要素について)は、緑地やかな曲線形「輪郭に重点」	

# 上仁井田の諏訪神社で 2年8ヶ月ぶりに鳥居再建



▲鳥居再建を祝う竣工奉告祭に参加した関係者



## 東京都港区の親子がいわきの海と山を満喫

四倉ふれあい市民会議主催による、よつくら体験学習交流事業「海と山の冒険隊」が、11月23日に開かれました。

以前から東京都港区の小学生と保護者を四倉に招いて交流していましたが、震災で休止になり、今回が3年ぶりの開催です。従来は市内に宿泊していましたが、今回は日帰りツアーになりました。

約40名の参加者は、〈いわき海浜自然の家〉で四倉小学校の子どもたちや保護者と一緒に昼食を楽しんだ後、アンモナイトセンターで化石発掘を体験したり、久之浜の津波被災地や道の駅よつくら港を見学。



最後に訪れたとまとランドいわきでは収穫体験も楽しみました。

四倉小の子どもたちも、とまとランドで収穫体験をしました。

### 12月21日(土)

- 子どもクリスマス会 10時～15時  
サンタさんからのプレゼント、ゲーム大会などお楽しみがいっぱい。
- 場所／道の駅よつくら港 キッズランド

### 12月24日(火)

- 冬休み子ども映画会 10時～11時30分
- 親子餅つき大会 12時～
- 場所／四倉公民館

### 12月26日(木)

- 暮市餅つき大会 11時～(餅がなくなり次第終了)
- 場所／仲町商栄会・桂建設前

上仁井田字北浜に鎮座する諏訪神社の鳥居は、コンクリート製で、大正15年に建てられたものでしたが、震災で破損したため、撤去されました。「再建に当たっては、総代会で市内の鳥居を視察して回りました。諏訪神社の周辺は砂地で地盤が弱いので、軽くて耐震性の高い材質にしなければと考えたんです」と総代長の鈴木勝之さん。

検討を重ねた末、軽くて丈夫なステンレスの鳥居を作ることになり、平成24、25年度の地区の総会の席上や、回覧板で再建への協力を依頼。その結果、上仁

井田の北、南、仲・岸、セメントの4行政区の企業や氏子から、約480件の寄付がありました。

「総代会でお願いに回るよりも前に、氏子の方々から寄付の申し出があつたこともあります」と鈴木さんは振り返ります。

鳥居は10月19日に再建され、11月4日に現地で竣工奉告祭が開かれました。

「とても立派な鳥居が出来ました。やはり鳥居があるての神社。地域のみなさんのご理解とご協力の賜物です」と鈴木さんは感無量の様子でした。

## 市民文化祭開催 好演と力作で来場者を魅了

第40回四倉地区市民文化祭は四倉公民館を会場に、11月3日は芸能の部、同9、10日は展示の部が開かれました。

芸能の部では舞踊、歌謡、体操などの各サークルが日頃の活動の成果を発表。四倉中学校の合唱コンクールで最優秀賞に輝いた3年3組と、吹奏楽部もゲスト出演しました。展示の部では、陶芸、絵画、川柳、パッチワークなどの力作が並び、来場者はサークル関係者の説明を聞きながら、作品に見入っていました。また四倉地区の幼稚園、保育園の園児、小学校の児童の絵や書写のほか、市民講座「はじめてのパステル画」の作品も来場者の目を楽しませました。



一年に一度の市民文化祭で唄を披露する四倉民謡会のみなさん

## 秋晴れの下でウォーキングを楽しむ

11月24日、「第11回大浦ふれあいウォーキング大会」が開かれました。

過去最高の約250名が参加。大浦小をスタートして、円福寺や長隆寺などの史跡や、とまとランドいわきなどを回る、約8.9kmのコースを歩きました。

ゴールの大浦公民館では豚汁の振る舞いと、折りたたみ式自転車や米などが当たるお楽しみ抽選会がありました。



景色を楽しみながら自分のペースで歩く参加者

学校だより

## 石川県から特別授業 お菓子作りと言葉の伝え方



老舗和菓子屋〈松葉屋〉の那谷常務はうすいそ夏祭りを開催している「チムこのへん」の代表で地域に深く関わっています



北陸放送大木アナウンサー。この日は自局の同行取材も兼ねての授業でした。「福島の現状や子どもたちの元気な様子を伝えます」と話していました



紙芝居での授業風景。さすがアナウンサー、子どもたちを引き込んでいました

11月18日、豊間小学校で1、2年生を対象に4時間目にお菓子作り教室、5時間目に言葉の伝え方教室が行われました。

この取り組みは、石川県の老舗和菓子店「松葉屋」の那谷忠之常務と北陸放送の大木文香アナウンサーの協力で実施されました。

お菓子作りでは、初めての和菓子作りに子どもたちは興味津々。最中やなりきりを使ってクリスマスツリーを完成させました。

児童たちと一緒に給食を食べた後、午後の授業がスタート。大木アナウンサーが石川県の昔話「だんまりくらべ」を紙芝居で披露。「言葉だけではなく、絵を使うとより分かりやすくなります」と話しました。

次に3チームに分かれて、伝言ゲームをしました。

大木アナウンサーは「言葉で

人を傷つけることも、喜ばせることも出来ます。正確なことを伝えることが大切です」と話していました。

また、和菓子職人の那谷さんは「子どもたちの笑顔にあります」と話していました。

最後に水谷大校長から「今日は2人の講師に貴重な体験

津々。最中やなりきりを使ってクリスマスツリーを完成させました。



「今からやり方を教えますよ」と話す前に、子どもたちが集まってきた。興味津々です



をさせていただきました。言葉の大切さを学んだので、心からの気持ちでありがとうございました。言葉の大変でした」と提灯持ち役の鈴木裕人君。また、太鼓のリーダーの鈴木健太君は「譜面もなくビデオを見ての練習だったのに難しかった」と話しました。

「今後豊間が復興し、新しい町が出来たら、この地区でじんがらがしたい」と地区の未来について同じ希望を抱く2人でした。

## 文化祭で じんがらを披露

11月2日、豊間中学校で「第23回みよび祭」が開催され、日頃の総合学習の成果を発表しました。

今回、1年生が取り組んだ題材は「文化の学習」で他地域の伝統文化などを学んだ後、「じんがら念佛踊り」をテーマに選びました。し

かし、豊間にはじんがらの風習は無く、小名浜で活動している「じんがら踊友会」の橋本正志代表に指導を依頼。9、10月の2カ月間に渡り練習を重ね、本番のみよび祭で見事なじんがらを披露しました。

「じんがらの歌詞を覚えるのが大変でした」と提灯持ち役の鈴木裕人君。また、太鼓のリーダーの鈴木健太君は「譜面もなくビデオを見た」と話しました。

「今後豊間が復興し、新しい町が出来たら、この地区でじんがらがしたい」と地区の未来について同じ希望を抱く2人でした。



緊張の発表でしたが練習でうまく合わなかったところも本番ではしっかりと修整できました

## 豊間地区避難道整備

11月12日、豊間地区から中央台に抜ける林道の整備に伴う市による現地説明が行われました。

震災時津波から避難する際に道路が使えず孤立したしてしまった経緯から、豊間区は道路が行き止まりになっていた山野



協議委員の10名で豊間の入山地区を実際に視察して、どのように道が通るのか、道の傾斜伐採木などを確認しました。

安心につながれば」と鈴木徳夫区長は話していました。

を買収して、市街地に抜ける林道の整備を市に依頼していました。

30日に3地区の若手代表者により、発足しました。10月23日には「海まちとよま市民会議」と新たに名称を決定。それに伴い役員も選出され、会長は瀬谷貢一さん(薄磯)に決

30日に3地区の若手代表者により、発足しました。10月23日には「海まちとよま市民会議」と新たに名称を決定。それに伴い役員も選出され、会長は瀬谷貢一さん(薄磯)に決

## 新しいまちづくり会議(沼ノ内・薄磯・豊間)

これからの豊間地区についての市民会議が8月

議題についても、「震災遺構に被災した豊間中学校を残せないか」など



地区の若手代表者の議題を行政がサポートをして会議が進められます

会議は毎月第2、4木曜日に行っています。今後も議題に応じて若手の参加者がや有識者を交えて話し合いを行います。新しい豊間地区のまちづくりの柱になっていくことが期待されます。

11月12日、豊間地区から中央台に抜ける林道の整備に伴う市による現地説明が行われました。

震災時津波から避難する際に道路が使えず孤立したしてしまった経緯から、豊間区は道路が行き止まりになっていた山野



## 「子どもたなカー」日曜市に登場

11月3日、豊間日曜市会場にカラフルな台車を押しながら、駄菓子を販売する子どもたちの元気な声が響き渡りました。

この小さな移動販売車「子どもたなカー」は、先月の豊間公民館まつりのワークショップで、子どもたちが台車に飾り付けをして完成させたものです。

市の教育委員会のサポートを受け、日曜市での「子どもたなカー」による移動販売が実現。どんな商品を販売するかなども子どもたちが決めました。

参加した馬上星那君(豊間小4年)は「いろんな人と話しができてよかったです」、鈴木謙心君(同5年)も「大人がこうして商売しているのだとわかった」と笑顔で話しました。子どもたちが日曜市に新たな活力を与えることになりました。

「たなカー」とは、軽トラックの荷台に手作りの木棚を取り付けた移動販売車です



11月9日、薄磯の山六観光にて、「信州かわせみ歌声会」のメンバー53名が薄磯地区を訪れ、薄磯区の慰靈碑基金への義援金を宮沢由美会長から薄磯観光組合幹部へ好んで寄贈しました。



では知りませんでした。地元に帰って伝えていきたい」と話していました。

11月24日、平下高久の会場で、近隣の小学生たちによる恵比寿様、大黒様を描いた、こども絵画展の表彰式が行われ、津軽三味線の演奏や浜菊会による「あんばさまの歌」の披露もありました。

「みんなで祝おう恵比寿講」が開催されました。会場では、近隣の小学生たちによる恵比寿様、大黒様を描いた、こども絵画展の表彰式が行われ、津軽三味線の演奏や浜菊会による「あんばさまの歌」の披露もありました。

「みんなで祝おう恵比寿講」が開催されました。

「みんなで祝おう恵比寿講」が開催されました。

11月24日、平下高久の会場で、近隣の小学生たちによる恵比寿様、大黒様を描いた、こども絵画展の表彰式が行われ、津軽三味線の演奏や浜菊会による「あんばさまの歌」の披露もありました。

▶津軽三味線の演奏。奏者の岡田修さんは「いわきは初めてで新鮮な気持ちで演奏できました」と話しました



◀こども絵画展の表彰式で鈴木会長から賞状を受け取る児童。みんな嬉しそうでした

## 卒業制作に薄磯をテーマに



11月3日、薄磯復興協議委員会に日本大学理工学部の岩井都夢さんと協力者の2名が、制作中の震災前の薄磯のジオラマを持参して、地元の協力をお願いしに来ました。

岩井さんは薄磯のホームページを見つけて被災した豊間中学校が目に留まり、自分の卒業制作にしようと思い、インターネットなどを使いジオラマの制作に取りかかりました。



制作のテーマは「薄磯の過去・現在・未来」で、被災した校舎のあり方や将来に向けた課題などを協議委員会メンバーと話し合っていました。

他地域の若者が関心をもって行動する姿はこれから薄磯地区の復興を後押しすることでしょう。

## 長野県から慰靈碑基金へ寄付

11月9日、薄磯の山六観光にて、「信州かわせみ歌声会」のメンバー53名が薄磯地区を訪れ、薄磯区の慰靈碑基金への義援金を宮沢由美会長から薄磯観光組合幹部へ好んで寄贈しました。

「慰靈碑に役立ててください」とお義援金を手渡した宮沢会長(左)

同会はこの日「いわきら・ら・ミュウ」で行われた「大歌声会」の開催に合わせて来市し、薄磯の現状を視察しました。参加者は「いわきの津波被害はあまり報道されないのでこれ程まで

▶津軽三味線の演奏。奏者の岡田修さんは「いわきは初めてで新鮮な気持ちで演奏できました」と話しました



◀こども絵画展の表彰式で鈴木会長から賞状を受け取る児童。みんな嬉しそうでした

## 卒業制作に薄磯をテーマに



11月3日、薄磯復興協議委員会に日本大学理工学部の岩井都夢さんと協力者の2名が、制作中の震災前の薄磯のジオラマを持参して、地元の協力をお願いしに来ました。

岩井さんは薄磯のホームページを見つけて被災した豊間中学校が目に留まり、自分の卒業制作にしようと思い、インターネットなどを使いジオラマの制作に取りかかりました。



制作のテーマは「薄磯の過去・現在・未来」で、被災した校舎のあり方や将来に向けた課題などを協議委員会メンバーと話し合っていました。

他地域の若者が関心をもって行動する姿はこれから薄磯地区の復興を後押しすることでしょう。



全体的に広いスペースのレストラン。個室や座敷席も設けられ、ゆったりと食事が楽しめる



震災前のように週末には買い物客で賑う直売店



真剣な表情で魚を捌く小野さん

震災による津波で店舗が全壊。敷地内に鮮魚や惣菜の販売と飲食スペース、レストランを備えた新たな店舗を建設し、2年半ぶりに営業を再開しました。

9月10日、港を望む小名浜の一画に元気な掛け声が戻ってきました。声の主はトレードマークの赤いボロシャツを着た、『さすいち』の小野輝男さん(71歳)。

「現在の」ピンチはチャンス。この風評を逆手にとつて常磐沿岸で水揚げされる魚を広く知つてもらおう」と話します。

現在、小野さんは風や日射量の適した冬場に合わせ、『さすいち』名物の干物を作り始めています。「将来的には、カレイやアンコウなど冬の地魚を、まずは地元の人々に美味しく食べてもらいたい」と話します。

## 地魚と 水産業復興への想い

現存、小野さんは風や日射量の適した冬場に合わせ、『さすいち』名物の干物を作り始めています。「将来的には、カレイやアンコウなど冬の地魚を、まずは地元の人々に美味しく食べてもらいたい」と話します。

株式会社 サスイチ小野水産  
代表取締役 小野 輝男さん

## 営業再開と水産業復興への想い



### お客さんの声が 営業再開を後押し

営業再開を後押したのは、

地元をはじめ全国のお客さんからの『さすいち』の干物や美味しい魚はいつ食べられるのか』という声でした。「お客さんの声に応え、水産業で小名浜を復興させるという気持ちがだんだん強くなつていつたのです。震災後、小名浜の復興には7～8年かかると言われていましたが、徐々に復興していく街の様子を見ると、過去を振り返り1歩でも前を向いていこうと考えられるようになり、再開の日を迎えることができました」。



■さすいち直賣店 ⑨ 7:00～18:00 ☎ 0246-53-6905  
■小名浜惣菜さすいち ⑨ 7:00～15:00 ☎ 0246-73-0141  
■レストランさすいち ⑨ 11:00～21:00 ☎ 0246-73-0141

いわき市小名浜字辰巳町36-1(定休日／毎週火曜日)

惣菜店を新たに併設し、スタッフ全員がチームプレーで店を盛り上げています。「美味しい魚を食べてもらつて復興を加速させたい」。震災を乗り越え、小野さんの新たな挑戦が始まりました。

手を携え、水産業の復興に取り組んでいきたい」と抱負を話す小野さん。



小名浜が発祥のサンマのみりん干しは秘伝のタレで作った自慢の一品

## 遠洋航海実習から無事帰港

11月11日、いわき海星高校1、2年生38名を乗せた練習船「福島丸」が、約2ヶ月におよぶ今年度の二次遠洋航海実習を終え、小名浜港へ帰港しました。はじめ学校関係者や家族などが無事の帰港を喜び、長期航海実習の労をねぎらいました。長く厳しい実習を乗り越えた生徒たちの表情は凜々しく、『海の男』に成長して帰つてきたように感じられました。



▲福島丸のデッキに整列して出迎えに応える生徒たち

◆生徒は実習で捕獲したマグロを船上から見つめています





## 第36回 磐城地区 総合市民文化祭

10月26日、27日

展示の部は両日、小名浜公民館で行われ、生花、盆栽、きもの帯結、手編み、革工芸、絵画作品などが展示され、手話体験やお話会のコーナーも設けられました。芸能の部は27日、小名浜市民会館で行われ18団体203名が参加しました。



### 芸術・文化とスポーツの秋特集



#### 10月26日 江名小×アリオス学習発表会

おでかけアリオス地域交流落語会事業として同校6年生25名と立川らく次さん、立川獅子丸さんなどで制作した創作芝居が披露されました。



#### 11月1日 江名諏訪神社 月次祭

サンマ漁船の船頭の妻たちが安全航海と豊漁を月次祭にて祈願しました。サンマ漁期間の毎年11月1日に行われるのが恒例です。

### お知らせ

●2014年1月11日(土)13:00～小名浜寄席〈小名浜美食ホテル&いわき・ら・ら・ミュウ〉

◇桂歌春師匠による落語、マジックレディースさんの奇術などが行われます。

●2014年1月19日(日)11:00～ あんこう鍋試食会〈いわき・ら・ら・ミュウ〉

◇1人1杯で、予定数なくなり次第終了。館内お買い上げレシート提示が必要。

#### 【アクアマリンのお正月イベント】

●お正月特別展示 福達摩と金色の錦鯉  
12月27日(金)～1月31日(金)

●お年玉プレゼント

1月1日(水・祝)～1月3日(金)

◇各日、朝9時より先着100名、干支にちなんだタツノオトシゴグッズをプレゼント。

●巨大おさかなカルタ大会

1月1日(水・祝)～5日(日)12:00～、15:00～

●フィギュア釣り

1月1日(水・祝)～5日(日) 10:00、13:00～

◇1回300円。制限時間3分で釣り放題。



運転開始スイッチを押す佐藤雄平知事と赤羽一嘉(あかばかすよし)経済産業副大臣

11月11日、いわき・ら・ら・ミュウで福島復興・浮体式ウインドファーム実証研究事業運転開始式が行われ、福島県沖20km地点に設置された2メガワット(以下MWに略称)ダウンウインド型浮体式洋上風力発電と変電設備それぞれ1基が運転を開始しました。来年度には油圧式風力発電設備2基が増設され総世界最大規模になる予定です。

**次代のエネルギー産業による  
復興をめざす**



▲永崎海岸堤防嵩上げ工事  
海岸部分の工事が着工され、12月下旬には進捗率40%になる予定です。(11月20日撮影)  
◆正一位小浜稻荷神社  
震災により屋根瓦が損壊していましたが銅板屋根へ改修され、11月16日に御靈移しの儀が執り行われました

### 復旧の風景

清水敏男市長が挨拶し「本市の復興に向けた洋上風力発電関連産業の集積と雇用の創出を目標とし、『漁業との共存』が大きなテーマである」と話しました。次代のエネルギー産業による本市の復興に大きな期待が高まっています。

# 津波に負けず、再び筆を握り締める

植田書道愛好会 鈴木重勝さん

サークルの歴史とともに歩んできた“書の道”

困難を乗り越え、かけがえのない仲間と再会



サークル活動にて、真剣な眼差しで筆を運ぶ鈴木さん

▶市民文化祭で展示された会員の作品。日ごろの稽古の成果が滲み出ています

▶高橋さんの指導を熱心に聞く会員のみなさん。活動内で書き上げた作品は日本書学館へ郵送し添削されるほか、自主的に書道の全国展などにも出展しています



昭和60年に発足した、勿来地区の住民で構成されるサークル「植田書道愛好会」。会長の高橋和子さんの指導のもと、8名の会員が毎月第1、第3火曜日に植田公民館で活動しています。

その中の一人が、岩間町にお住まいの鈴木重勝さん（93歳）。「自分の趣味を見つけて、いろんな人の交友を深めたい」と、サークル発足と同時に入会し、現在も元気に活動を続けています。

震災当時、奥さんと一緒に自宅にいたという鈴木さん。突然大きな揺れに襲われ、倒れた壁や床が抜け、腰まで水が来たそうです。鈴木さんはどうさにコタツの上に奥さんを乗せ、流れてしまわないように押さえながら水が引くのを待ちました。

その日は自宅で不安な一夜を過ごし、翌朝、日の出とともに活動を再開しました。活動を再開し、鈴木さんも震災後はじめて行われた活動に参加することができました。

「みんなの顔が見れてほっとした」と、当時を振り返る鈴木さん。今年10月に行われた市民文化祭にも作品を出展しました。「あの震災を乗り越えて続けてきた書道。これからも元気活動していきたい」と、今日も筆を握ります。

に駆けつけた息子さんと一緒に茨城県ひたちなか市へ避難。およそ1ヵ月後、奥さんは介護施設に預け、鈴木さんは佐糠町で被害に遭ったという弟さんが避難している借家で過ごしながら、岩間にある自宅の掃除や片付けをしました。

そして、震災からおよそ3カ月後、半壊となってしまった自宅の修理が完了。

その頃、公民館が使用できなかつたために休止となっていたサークルも

活動を再開し、鈴木さんも震災後はじめて行われた活動に

参加することができました。

「みんなの顔が見れてほっとした」と、当時を振り返る鈴木さん。今年10月に行われた市民文化祭にも作品を出展しました。「あの震災を乗り越えて続けてきた書道。これからも元気活動していきたい」と、今日も筆を握ります。

## 勿来地区 市民文化祭フォトギャラリー

10月26、27日 文化展 in 植田公民館



両日午前は1階ロビーで抹茶のコーナーも開設



今年は双葉町のみなさんによる作品コーナーも設置されました



生け花の展示スペースには美しい季節の花々に見とれ、足を止める方の姿も…

11月10日 芸能祭 in 勿来市民会館



開会式前、観覧席はすでに来場客でいっぱい



華麗なフラダンスに、客席からは大きな拍手があがりました

# 音楽と身体で 創りあげる奇跡のショーアップ

震災以降、東北地方各地でツアーワーを行ってきた「ヤングアメリカンズ」。市内の小、中学校にもたびたび訪れ、歌やダンスを通じて被災地の子どもたちを元気づけています。

10月30、31両日、植田中学校

にヤングアメリカンズが訪れ、同校の1年生163名が2日間のワークショップに参加しました。最終日の夜に行うショーに向け、ヤングアメリカンズのキャストによる指導のもと、グ

初日は緊張を見せていましたが、ヤングアメリカンズのキャストと楽しい会話を交え、のびのびと練習に励みました。

ループごとに分かれて歌やダンスを特訓。計4回行われた

ワークショップのなかでは、リハーサルを兼ねて全体練習も行

われました。

本番は、ヤングアメリカンズ

による第1幕と、生徒と先生

も参加する第2幕の2回に分

けて公演。生徒たちによるショ

ーも第1幕と同じ1時間とい

う長い時間でしたが、2日間の

成果を十分に發揮し大盛況の

まま幕を閉じました。



ヤングアメリカンズによる公演では、歌のほかにタップダンスなども披露。息の合ったショーは圧巻です



初日は緊張を見せていた生徒たちですが、ヤングアメリカンズのキャストと楽しい会話を交え、のびのびと練習に励みました



生徒たち自らが行うショーには、我が子の活躍を一目見ようと保護者のみなさんも来場。大勢のお客さんに注目されるなかで緊張に負けずやり抜きました



## 秋の夜長に 美しい音色を満喫

11月9日、勿来の閑公園内にある「吹風殿」で、秋風と管楽の響き～サクソフォーン・アンサンブルの調べ～が開催されました。「IBCサクソフォンアンサンブル」のみなさんが、八重の桜のメインテーマ曲などを含む全11曲を披露しました。

今年で7年連続の開催となった同イベント。毎年参加している方も多く、客席からはアンコールの声があがりました

## 勿来ライオンズクラブ 結成40周年記念 子どもたちとともに、勿来の復興に貢献



揃いの半被(はっぴ)で勇ましい太鼓演奏を披露しました

10月28日、「いわき勿来ライオンズクラブ」の結成40周年を記念し、式典およびクロマツの植樹が錦町須賀地区内の特設会場にて行われました。

式典には同会員や来賓、また勿来地区内13の保育園、幼稚園の園児など、合わせて約700名が出席。東田保育園の園児による和太鼓も披露されました。

その後、津波で荒れてしまった海岸沿い約34アールの保安林に、出席者が3,000本のクロマツを植樹。参加した園児たちは先生や友達と協力しながら、笑顔で勿来の沿岸部復興に貢献していました。



植樹が行われた荒地は、今夏から同会員と双葉町民によって整地作業が進められてきました

## 地域全体で取り組む 防災訓練

10月27日、小浜漁港前で小浜町自主防災会による防災訓練が行われました。

勿来消防署により防災講話が行われたほか、署員の指導のもと地域住民の方々も人形を使って心肺蘇生法の訓練や初期消火訓練を体験しました。「はじめてやってみたが、結構大変だったね」という、蘇生法を体験した方からの感想も。

その後は、新潟県小千谷市から支援に訪れた、NPO法人「おぢや元気プロジェクト」のみなさんや、勿来消防署のみなさんを交えて炊き出しを実施。婦人会のメンバーが作った豚汁やおにぎりのほかバーベキューも用意され、食事をしながら交流を深め合っていました。



▲勿来消防署から救急車が来るまでの約10分間を想定し、住民が入れ替わりながらの蘇生法訓練も行われました

◆消火訓練にはお子さんの姿も。子どもから大人まで一体となって、地域の防災に取り組んでいます

## 市からのお知らせ

いわきの今を  
デジタルフォトフレームで

市では現在、震災で被災された方を対象にデジタルフォトフレームを無償で貸与しています。

市内の一時提供住宅に入居している410名と、市外に避難している204名が利用中。そのほか、各地区の交流スペースや仮設住宅の集会所などにも設置されています。

行政情報をはじめ、市内各地の放射線量、イベント案内など、いわきの情報を随時配信中。また、桜や紅葉、イルミネーションなど、市内のビュースポット情報も定期的に配信しており、市外に避難されている方にも四季折々の風景を楽しんでもらえるよう、いわきの今をお知らせしています。

特に難しい操作もなく、年配の方でも使いやすいので、ぜひご利用ください。

## 対象

平成23年3月11日時点にいわき市に住民票のあった方で、次のいずれかに該当する方

- ①市内の一時提供住宅に入居されている方
- ②原発事故に伴い市外に避難されている方

## 申請方法

申込書に必要事項を記入し、  
〒970-8686 平字梅本21番地  
復興支援室へ(直接持参可)  
※申請書は市のホームページから  
入手できます。  
※詳しくは、市復興支援室  
☎0246-22-1196へ。

コンパクトなデジタルフォトフレーム。12月も  
多くのイベント情報が配信されています

## ▼▼「交流サロン作品展」初の開催▼▼

〈タウンモール・リスト〉内にある「小名浜地区交流サロン」で、11月21日から23日の3日間にわたり作品展が開催されました。

市内の「ぱお広場」「小名浜地区交流サロン」「なこそ交流スペース」「交流サロンぶらっと」の4カ所のサロンで活動するみなさんがあつたパッチャワーク作品や編み物、絵画などが展示されました。

「初めての合同作品展。他のサロンと関わりを持つことができ、どのような物を作っているのか分かったので良かった」と話すスタッフの村上百合子さん。来場者は作品を鑑賞しながら、交流を深めていました。



会場には小さな女の子の姿もあり、一緒に来たお母さんが「すてきだね」と話していました



「なこそ交流スペース」の展示コーナー。色とりどりの作品が、見る人を楽しませていました

## ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

●メールの方／furusato@asally.co.jp

携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→



●FAXの方／☎0246-26-5157

●おたよりの方／左記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!  
いわきあいあい 検索

応急仮設住宅や雇用促進住宅の  
イベント紹介

## 中央台高久第一応急仮設住宅

## ●クリスマスリース作りで親睦を深める

11月16日、平友の会主催で第23回生活講座が開かれました。

今回は大久町在住のフラワーデザイナーでボランティアグループ「千日紅の会」代表の小島悦子さんを講師に招き、ドライフラワーを使ったクリスマスリースづくりに挑戦しました。

20名の参加者たちはヒバとコニファーで大まかな形を作った後、綿花の殻や千日紅、トウガラシ、リボンなどを飾り付けて、世界にひとつだけのリースを完成させました。



参加者が作業するテーブルを回り、丁寧に指導する小島さん(左から3番目)



「難しいところもありましたが、綺麗に出来ました」と、ポーズを取る参加者

## 内郷雇用促進住宅

## ●「砂子田秋祭り」開催

11月17日、チーム平堂根の主催で秋祭りが行われました。

会場では、支援団体による炊き出しが行われ、さんまのつみれ汁や焼きそば、おでん、ベトナムスープなどが参加者に振舞われました。

また、チーム赤べこによる会津飯豊権現太鼓の演奏にはじまり、いわき芸能俱楽部の古扇亭唐変木さんによる落語の披露など、さまざまなイベントも実施。最後には久之浜の民謡歌手、岬花江さんによる歌謡ショーも行われ、大きな拍手に包まれました。



晴天に恵まれ、多くの参加者が温かい料理を味わっていました



岬さんの歌に合わせて、客席からも口ずさむ声が聞かれました

## 相談コーナー

## ●各支所での弁護士による無料法律相談会（1月の日程）

勿来支所／9日(木)、四倉支所／21日(火)、小名浜支所／23日(木)

◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象

相談時間／14:00～17:00の間で30分程度(要予約)

〈予約・問い合わせ〉市広報広聴課 ☎0246-22-7438

## 表紙の人

## 汐見が丘ソフトボールスポーツ少年団

最前列左から●柳葉 清陽くん(キャプテン)●東谷 樹くん(副キャプテン／ピッチャー)●清水 源太くん(キャッチャー)●柳葉 洋太くん(ショート)

団員は、現在18名。そのうち12名は6年生なので、12月22日に行われる卒団式を終えた後は、川部スポ少との連合チームになる予定です。

ソフトボールをやってみたい人はぜひ、汐見が丘ソフトボールスポーツ少年団に入団してみませんか?先輩たちと一緒に、元気に楽しく活動しましょう!

